

若手教師がオンラインで自身が抱える悩みを共有し、 解決策を仲間と模索しながら、自校で実践する 「若手教師・教育創造MTG」の取り組み

2020年4月にスタートしたVIEWnext編集部主催の「若手教師・教育創造MTG（ミーティング）」は、全国の若手教師が様々な教育課題について語り合うオンライン・コミュニティだ。第2期2年目となる24年度は、メンバーが自身の問題意識や興味・関心に基づいて設定したテーマに、グループや個人で取り組んだ。本コミュニティでは、学校という枠を超えて生まれた「安心・安全な空間」が、メンバー一人ひとりの挑戦を支えている。

それぞれの課題を基に 新しい試みに挑む

「若手教師・教育創造MTG」は、全国の若手教師が、高校教育のあり方や直面している問題の解決方法などについて語り合うオンライン・コミュニティだ。24年度の活動方針は、各メンバーが自身の問題意識や興味・関心に基づいて今年度取り組むテーマを設定し、それに試行錯誤しながら取り組むことを通じて、自分自身をバージョンアップさせることとした。そこで、7月に実施した今年度の1回目のオンラインミーティングでは、日頃の問題意識や自分の興味・関心について、メンバー間で語り合い、互いのことを知った上で、問題意識や興味・関心に共

通点のあるメンバーと協働してテーマを設定して取り組むか、あるいは1人でテーマを設定して取り組み、その過程で必要に応じて他のメンバーと協働するかをメンバー自身が決定した。そして、9月に実施した2回目のオンラインミーティングでは、メンバーが4つのテーマ（図1）でグループまたは個人で活動することが決まった。

9月の段階では、「教師の説明中心の授業から脱却し、生徒の主体性を引き出す自由進度学習に挑戦したい」「探究学習に対する教師のマインドセットを変えたいため、学校を超えた教員研修を実施したい」などとメンバーから展望が語られた。しかし、勤務校が異なるメンバーがどのようなことに取り組めるかは不透明だった。

図1 2024年度の「若手教師・教育創造MTG」の活動

全国の公立・私立高校から若手教師12人が参加し、オンラインで交流。自身の興味・関心や問題意識を基にして設定したテーマに分かれ、個人またはグループで1年間活動。

テーマ「授業において、生徒の力をどのようにして借りれば、うまくいくのか」

（メンバー：北海道羽幌高校・小山知倫先生、山形県立鶴岡中央高校・五十嵐雄大先生、山形県立山形北高校・柴田勝将先生、東京都立田柄高校・齋藤愛美先生、山口県立岩国総合高校・川端雄也先生、福岡県立筑紫丘高校・徳永拓也先生）

テーマ「教師による教育実践の発信と共有について」

（メンバー：市立札幌藻岩高校・對馬光輝先生）

テーマ「学校横断型の教員研修」

（メンバー：北海道・私立旭川明成高校・佐藤卓也先生、東京都・私立多摩大学附属聖ヶ丘中学高校・出岡由宇先生、広島県・私立如水館中学高校・田栗和馬先生）

テーマ「自学の質を高めるには」

（メンバー：栃木県立足利清風高校・田島祥行先生、福井県立勝山高校・片矢雄大先生）

※プロフィールは、2025年3月時点のものです。

なぜ若手教師たちは 行動することができたのか

メンバー自身が設定したテーマに取り組み中で教師としての「バージョンアップを図ろう」とすることは、「教師による探究学習」とも言える活動だった。どのメンバーも多忙であるのにもかかわらず、各チームの活動は停滞することなく、新しい試みに挑み、25年2月の最終活動報告に至るまで、成果や課題をオンラインで共有し続けた。

例えば、自由進度学習などを導入して授業改善に取り組んだメンバーは、「生徒は自分に合った学び方を選ぶことで、これまでよりも学習内容の理解が深まっているようだ」といった成果を、「コミュニティで活用しているSNS (P.20図2) 上で報告する一方で、「教師の説明が中心の授業に戻してほしい」と言ってきた生徒もいる」「教材の準備が不十分だったため、生徒が自由進度学習のよさを味わえなかった」などと自身の課題も率直に語った。

勤務校の生徒の状況も異なる若手教師が協働し、それぞれが直面している問題の解決に挑戦することができたのはなぜか。若手教師がそれぞれの潜在能力を発揮することができた要因を、2人のメンバーとの対話から探る。

メンバーに聞く「若手教師・教育創造MTG」はどのような場だったのか

「聴いているよ」のサインを送り合う中で、
ともに問題解決に挑もうとする空気が醸成された

期待したのは、実践を共有する 「新しい仲間」との出会い

出岡由宇先生、齋藤愛実先生は、「若手教師・教育創造MTG」にどのような思いで参加されたのですか。

出岡 新しい友人をつくることを期待して参加しました。自分の探究学習の実践を全国の先生に聞いてもらいたいという思いもありました。

齋藤 私も新しい仲間ができるという思いがありました。全国の先生と話をするので、自分の取り組みをブラ

ッシュアップする機会にもなるのではないかという予感もありました。

24年度は、メンバーは自身の課題や興味・関心に基づいてテーマを設定し、実践を行いました。それぞれどのような活動に取り組みしましたが。

出岡 私のグループでは、主体的な生徒を育てる上で教師に求められるマイルドセットなどをテーマに、学校横断の合同教員研修を2回実施しました。

研修に参加した本校の先生方の変化は、「合同教員研修で、他校の先生もこう言っていたけれど……」などと、校外の情報もエビデンスにして、話をするようになったことです。自校以外

によりよい教育を目指す仲間ができたことは、とても価値があることだと思います。

齋藤 私のグループでは、メンバーが自分の授業実践を共有し、アドバイスを合せて、授業をブラッシュアップしていききました。私はこのグループに参加したことで授業改善が大きく進

み、その結果、生徒たちにも大きな変化がありました（*）。当初は、地域性や生徒の学力も異なる学校の教師同士でどんな交流ができるのだろうかと不安もありましたが、実際に話をしてみると、似たような悩みを抱えていることが分かり、授業改善に生かせる気づきもたくさん得られました。

実践する仲間が、 悩みに寄り添ってくれた

「若手教師・教育創造MTG」で、なぜそのような成果を得ることができたと思いますか。

齋藤 自分の本音や悩みを吐露できたことが要因の1つだと思います。同じような問題意識を持つメンバーから成るチームに分かれていたことで、チームのメンバーには日々の授業の悩みを気軽に相談することができました。また、参加者全体のミーティングでも、先生方のオンライン上での反応がとて



東京都立田柄高校
齋藤愛実
さいとう・まなみ
同校に赴任して1年目。教
学科



東京都・私立多摩大学附属
聖ヶ丘中学校
出岡由宇
いずおか・ゆう
同校に赴任して11年目。国
語科

* 齋藤先生の授業については、P.26～29の「発問・課題設定をキーに見る 主体的・対話的で深い学び 授業実践」をご覧ください。

図2 「若手教師・教育創造 MTG」のメンバーの SNS 上でのやり取り

20:25
先生、ずっと取りまとめをやっていただき、ありがとうございました！
先生の雰囲気がとても話しやすく、安心感があるからこそ、ここまでチームの探究が進んだのだと思います。
生徒たちも、先生のやることについていこうとしているだろう姿が伺えます。
今後ともどうぞよろしくお願いいたします 😊

👍 3 🗨️

先生、先生、先生、先生
探究し続ける先生でいてくださって、ありがとうございます！
ハイクオリティな取り組みをしていらっしゃる先生方からの感心やお褒めいただく言葉が、あったかくて嬉しく、生徒も同じ思いだろうと思います。
一緒に考えてくれる先生がいると、意欲が無量大ですね。
これからもたくさん挑戦していきたいと強く思います。
一緒にチームを組んでくださり、ありがとうございます 🙌

❤️ 4 🗨️

同じチームのメンバーに SNS 上で感謝の言葉を伝える齋藤先生。「雰囲気がとても話しやすく、安心感があって」「関心を持ってもらえたり、褒めてもらえたり、かけてくれる言葉が温かかった」など、悩みを相談したり、新しい挑戦の進捗を報告したりすることができる関係性をつくれていることがうかがえる。

13:11
チームの皆様
昨日はありがとうございました！
事前MTG含め、大変有意義な時間でした！

MTGの際に突然「ほくれた理由」をお話しする流れになったのですが、改めて考えてみるとやっぱり皆さんの「熱量」だったのかなと思いました。
Slack等を通じて情報交換していく中で、情報と一緒に「熱」も交換していたのかなと。
先生が以前書かれていたとおり、ここにいらっしゃる皆さんが「主体的に学びに向かって」いらっしゃるんですね。そこから生まれてくる熱を情報とともに交換していくことで、(やらされるのではなく)「自分ももっと！」となっていったと思います。
そして、「もっと知りたい」となってほくれていったのかなと。
それだけたくさん取り組みと熱を共有できたことが、とても大きなことだったと思いました。
それから、特に最近、自分が「一人じゃない」と思えるようになったことも大きいです。
自分が一歩踏み出すのに迷いそうなときも、「チームの皆さんならきっと踏み出す！」と思って先に進める自分がいます。
様々な力をもらった皆さんには、本当に感謝しています！
今年度のMTGも残り1回ですが、よろしくお願いいたします！

👍 2 🗨️ 1 🗨️

齋藤先生と同じチームの教師は、メンバーの授業改善の取り組みが活化した理由として、指導ノウハウなどの「情報」の交換だけでなく、指導にかける思い、情熱を交換できたことを挙げた。それぞれの学校で指導にあたるメンバーの存在を念頭に、「自分が1人ではないと思えるようになった」と打ち明けていることにも注目したい。

もよく、話をちゃんと聞いてもらえているという安心感がありました。特に出岡先生の笑顔とリアクションは緊張をほぐしてくれました。

出岡 オンラインであれ、リアルであれ、話を聞いてもらえているということが伝わらないと、話しているうちに不安になりますよね。だから私は意識的にリアクションしていましたし、そうした自分の態度が参加者全員にとってアイスブレイクのような役割を果たせたらいいなと思っていました。今期初回の「若手教師教育創造MTG」で、学校対抗の麻雀大会を提案したのも、真面目に「辺倒ではなく、まずは楽しい関係性仲間をつくりたいと考えたからです」。

齋藤 「みんなでやっていたころ」といった雰囲気味わえたのは、同じチームのメンバーが、私の実践の中に必ずよいところを見つけて、成功した時には自分のことのように喜んでくれたり、相談や質問をした時には自分のことのように親身になって、「自分ならこうする」と、自分の実践を踏まえてアドバイスしてくれたりしたからだと思います。どのメンバーも評論家ではなく、互いにリスペクトし合う仲間でした。リアルかオンラインかは大きな問題ではありませんでした。

が、現場の教師とは少し違う視点で教育を語ってくれたことも、とても刺激になりました。また、それぞれの現場で試行錯誤する私たちにとって、全国の実践を知る編集部の方々から、「その実践は面白い」「その取り組みには実はこんな価値もあるのではないかな」と評価してもらえたことも励みになりました。これからの教育という、答えが1つではないテーマについて自由に語れる場があったことは、とてもありがたかったです。

——「若手教師・教育創造MTG」の経験を、今後にご生かしていきたいですか。

齋藤 学校外での学びを自分自身の成長につなげることができましたから、次は自分の勤務校に還元したいと思っています。本校の若手教師の中に、私の授業に興味を持ってくださっている先生もいますので、そういった先生たちとじっくり話す機会をつくりたいです。

出岡 近年、通信制高校を選択する高校生が増えるなど、学校の意義を改めて考える時期に来ているのではないかと感じています。高校教育のあり方が大きく変わっていくかもしれない今だからこそ、校外の先生と今後自由な議論し、それによって得られた学びを自校に還元したいと思っています。

出岡 VIEWnext 編集部の方々

VIEWnext編集部は、若手教師たちの活動の場をどのような思いでつくったのか

「WAKKATE」のスローガンを掲げ、 悩みや失敗を財産として認め合える場を目指した

「越境する学び」の驚きや 違和感を楽しんでほしい

生徒や保護者の価値観の変化、1人1台端末の整備や生成AIの普及などが学校に大きな影響を及ぼしており、先生方には目の前の生徒にふさわしい教育のあり方を、過去の常識にとらわれることなく模索し続けることが求められています。そうした中、VIEWnext編集部は、各校、各地域で活躍されている20代、30代の先生方の学校を超えたつながりづくりをお手伝いすることで、わずかでも将来に向けた学校教育の支援になるのではないかと考え、2020年度から「若手教師・教育創造MTG」を運営しています。24年度の活動で編集部が大切にしたい



VIEWnext編集部
丸山茉莉
まるやま・まり

ことの1つは、先生方に「越境する学び」を楽しんでいただくということ

です。慣れ親しんだ環境から一歩踏み出し、驚きや違和感を味わうことで、自分とはどんな教師を志し、どんな授業、どんな生徒との関係を目指しているのかを自問し、気づきを持ち帰っていたらどうと考えました。実際、12人のメンバーは、教科も勤務校の生徒の様子もそれぞれ異なります。置かれた状況が異なる先生同士の対話では、自分が直面している問題の答えはすぐには得られないかもしれません。しかし、様々な実践を聞くことで、自分自身を俯瞰し、新たな視点で問題に向き合っているだけではないかと考えました。

先生方が交流するSNS上では、私たち編集部からも、これまでの本誌の製作を通じて得た教育の知見や、変化の大きな時代に生きる1人として思いを述べさせていただくことがあります。それも私たち編集部員が、先生方一人ひとりにとって少しでも異質な存

在でありたいと考えたからです。

受け止めたというサインを 皆が丁寧に出し合った

編集部が大切にしたいことがもう一つあります。それは、悩みや不安を打ち明けることができる雰囲気づくりです。ミーティングでは「ワクワク」「熱い」「気軽に話せる」「安心・安全の場」「トライアル&エラーを大切に」という、こんな場になってほしいという願いを「WAKKATE」というスローガン(写真)にして、先生方にお伝えしました。互いの悩みや失敗を可能性として歓迎し合いたいと考えました。

オンラインミーティングで先生方の取り組みを聞いた時や、SNS上で校務の中での様々な気づきを書いた投稿を読んだ時には、その内容を自分なりに受け止めて、感想を述べるようにしました。もちろん、現場で試行錯誤している先生方に、現場にいるわけでは

ない私が新たな視点などを提供するとはできるとは思いませんでしたが、先生方の言葉を受け止めていることはきちんとお伝えしたいと考えました。

メンバーの先生方は全員、越境した学びの中の気づきと、新しくできた仲間とのつながりを生かして、授業や生徒・同僚との関係性をバージョンアップされていったと私は思っています。学び続ける先生方の姿に非常に刺激をいただきましたし、「聴いているよ」「いいね」のサインを送り合うことが、新しい挑戦への原動力になることを知ったことは、私にとっても大きな財産になりました。

Wワクワク **A**熱い
K気軽に話せる **A**安心・安全の場
Tトライアル& **E**エラーを大切に

写真 「若手教師・教育創造MTG」のオンラインミーティングで繰り返し参加者に伝えたスローガン。